

## 第 33 回 定時株主総会（要旨）

### <事業報告>

2020 年度のパチンコ業界は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた 1 年となりました。緊急事態宣言発令の期間は延べ 3 カ月間となり、パチンコホールはその間に休業や営業自粛を強いられたことから消費動向にも影響を及ぼしました。この結果、パチンコ・パチスロ市場における新台の年間総販売台数は 125 万台と、前年比で 49 万台ほど減少しました。

このような状況下、当社 PS 事業では、感染症対策を徹底しながら時機を見極めての販売に注力しました。上半期の市場は停滞したものの、第 3 四半期に社会経済活動の正常化が進んだことから、この機会を捉えて当期の主要機種を順調に販売しました。しかしその後、第 4 四半期に入っすぐに緊急事態宣言が再発出され、接触機会の削減が強く要請されました。このため、主要機種のうち一部の販売を延期せざるを得ず、上半期に生じた損失を下半期で回復するには至らぬ結果となりました。

現在も緊急事態宣言下にありホールの営業に支障をきたしていること、新型コロナウイルス変異株の拡がりや医療体制の状況、オリンピック・パラリンピック開催の有無または開催方法、広範なワクチン接種を経た来冬の感染状況の行方、これらに伴う社会経済環境の変化等、当面の間、先行きを見通しづらい状況が続くことが見込まれます。株主の皆様にはご心配をおかけして誠に恐縮ではございますが、次期業績見通しは上述した要因を織り込み、合理的な算定が可能となった時点で、速やかにお知らせいたします。

### <当社を取り巻く環境>

パチンコ業界は最盛期で 18,000 店舗にのぼるパチンコホールが営業していましたが、徐々に減少傾向にあり、現在は約 9,000 店舗が営業しています。他方で、設置台数を比較してみると、最盛期の 1 店舗あたり設置台数は約 250 台と小規模でしたが、現在は店舗の大型化が進んだことで約 500～600 台と増加傾向にあり、市場の総設置台数は微減にとどまっています。

パチンコ業界にとって最も大きな打撃となった出来事は、カジノ法案の成立に先駆けて 2014 年以降に相次いだ遊技機に対する規制等です。これらは 2018 年 2 月に規則改正が施行されるまで矢継ぎ早に続き、メーカーおよびパチンコホールに冬の時代をもたらしました。

その後、メーカー各社の試行錯誤の結果、2019 年 4 月以降は新たな規則に対応し、ファンの皆様を楽しめる遊技機が徐々に投入され、2020 年度には大型ヒット機種も登場しています。

当社は、上述したパチンコ業界の混乱期の最中で代表取締役会長の山本が 10 年ぶりに社長職に復帰して経営基盤の整備・強化に着手したほか、山本が当社グループの要である PS 事業に関わる開発・営業全ての人員に対して、フィールズの黄金時代を再び創るための主導をしまりました。当社にとっての収益源は、遊技機の販売であり、販売台数の最大化を達成するためには、商品力が必要となります。この商品力に磨きをかける取り組みを進めた結果、昨今発表した商品では販売台数も増加傾向にあり、一部機種では追加受注もいただける結果となりました。また、これら商品力の向上に加えて、販売面においても、従来の営業拠点や営業社員の人数を強みとする営業力ではなく、SNS をはじめとする

ネットワーク等を活用した販売力の強化に取り組んでいきます。

当社では、2021年度の市場総販売台数を約150万台と予測し、その中で20万台以上の販売を目標としています。

当社グループは、事業の柱であるPS事業に加え、現在もう一本の大きな柱の育成に努めています。株式市場ではIP銘柄と認知された企業の評価が軒並み高くなっている中、当社グループでは(株)円谷プロダクションと(株)デジタル・フロンティアの2社をIP企業と位置付け、あらゆる取り組みを進めています。

(株)円谷プロダクションでは、映画『シン・ウルトラマン』の公開を発表し、鋭意制作を進めています。庵野秀明氏が総監督を務めた映画『シン・エヴァンゲリオン劇場版:||』は興行収入90億円超の大ヒットを記録しており、同氏が企画・脚本を手掛ける『シン・ウルトラマン』についても大きな期待が寄せられています。また、映画の興行収入だけでなく、すばらしい映画を発表することにより、それに付随する玩具等のマーチャンダイジングや、食品やアパレル企業向けのライセンスビジネスにも大きな利益が見込まれます。

このように、当期はPS事業での収益拡大を目指すとともに、円谷プロダクションおよびデジタル・フロンティアをIP企業として成長させる取り組みに注力していくことで、フィールズグループの価値をより一層高めてまいります。

株主の皆様にご貢献できる会社として、社員一同、一層に精進してまいりまいる所存ですので、皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻賜りたいと思います。また、依然として新型コロナウイルス感染症が社会的に影響を与えておりますが、株主の皆様におかれましても、ご自愛専一にお過ごしください。ご清聴ありがとうございました。